

たじみん昼話 81

令和3年度、始業式の式辞と言葉

学校長式辞

新しいスタートに喜びを感じながら、学校生活を送ろう。

さて、高校生活の1000日を登山に例えると、

2年生は三合目まで登ってきたことになる。登山経験でいうと、慣れてきて余裕が出てきたところであろう。所謂中だるみをしやすい時期でもある。この余裕を良い意味で活用して、学校生活に取り組んでいくことを勧める。

3年生は、いよいよ頂上を意識する七合目まで来たところになる。ゴールを意識するのは重要だが、その途中にある景色に相当する学校生活を楽しんで欲しい。そして、卒業後はバラバラになる可能性もあるので、家族との時間も大切にして欲しい。

1年間という長期戦を過剰に意識して、俯瞰的発想に捕らわれ日々の生活まで意識が向かなくなるかもしれない。しかし高校生活は、その一瞬一瞬の積み重ねであり、特にこの一年間は凝縮した重要なものになる。そこを意識して味わうことを大切にしたい。

我々職員は、皆さんが登っていくのを見ている傍観者ではない。伴走しながら、ポイントで支援をして成功へ導いていこうと考えている。一緒に頑張ろう。

進路指導部長の言葉

高い志とチャレンジ精神をもって、受験と学習に臨んで欲しい。

多治高生はまじめで力がある。だけどすぐに諦め妥協しがちという弱点がある。

まじめに努力をするのではなく、夢中になって取り組む形で努力して欲しい。それが、学習やスポーツをマスターする王道だ。進路通信に掲載したハンドボールのレミたんや陸上のオリンピックである為末さんも、その大切さを語っている。

一流が取り組む姿は、ひたむきに努力をしているだけのように見える。しかしそれは状況を表面的に捉えているだけだ。本人は、どうしたら上手くなるのか、どうすればマスターできるのかを、夢中になって考えながらやっている。これが一流に到達するための必要十分条件だ。

自分は無理と簡単に諦めないで、夢中になるほど入れ込んで夢を達成して欲しい。